

## 愛媛医学会賞に宮上氏

奨励賞は重松・多田・中島氏

県医師会員でつくる愛媛医学会（村上博会長）は

たたえる第10回愛媛医学会

2018年に国内外の医

学誌に掲載された論文の著者を対象に選考委員会で審査。

医学会奨励賞は、県立中央病院循環器内科の重松

院医学系研究科薬物療法・

神経内科学の多田聰助教

2型（SCA2）の患者に

脳内のドーパミントランス

ポーター（DAT）につい

て調べる検査を行った結

果、DATの減少が特徴的

なパーキンソン症状を主体

とする症例以外でも、減少

が認められたと説明。検査がSCA2の潜在的なパ

ンソン症状を検出できる可能性があり、治療や生活の質改善につながることを示唆した。

医学会奨励賞は、県立中央病院循環器内科の重松

I）検査で鑑別することは困難であり、ヘルニアも念頭に置く必要性を指摘した。

宮上氏は、小脳症状が主

たたえる第10回愛媛医学会

2018年に国内外の医

学誌に掲載された論文の著者を対象に選考委員会で審査。

医学会賞には、済生会

松山病院脳神経内科の宮上

紀之医師（30）を選出した。

多田氏は、パーキンソン

病の鑑別によく用いる二つ

の画像検査で、発症してか

ら2年間、発症が認められ

ない結果が出た事例を報告。

画像所見だけでなく臨

床症状に基づいて診断・治

療する重要性を示した。

中島氏は、脊椎の神経を

テークル大動脈弁留置術で

安全に治療を行える場合が

あると明らかにした。

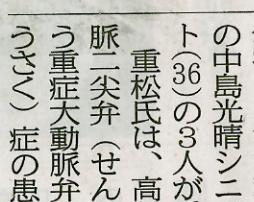
多田氏は、パーキンソン

病の鑑別によく用いる二つ

の画像検査装置（MR

ニアが、硬膜の背側に出た症

例を取り上げた。背側にでき



宮上 紀之氏

重松 達哉氏

多田 聰氏

中島 光晴氏